



## ごあいさつ

副院長  
看護部長

片岡 ひろみ

(かたおか ひろみ)

新年明けましておめでとうございます。医師会の諸先生方におかれましては、ご健勝のことと謹んでお喜び申し上げます。また、日頃から日本医科大学千葉北総病院がお世話になりまして、厚く御礼申し上げます。

昨年は産科、小児科の医師不足による患者のたらい回しや、7対1看護による深刻な看護師の需給問題がありましたが、今年は「子年」、金運・仕事運アップの年といわれています。子年にあやかり、諸先生方にとりまして良い年になりますよう祈念申し上げます。

20年度の診療報酬改定では入院基本料や手術・検査などの「本体部分」が0.38%引き上げられ、8年ぶりのプラス改定と朗報もありますが、薬価部分は1.2%引き下げで薬価、本体をあわせるとマイナス改定で今年も楽観できそうもありません。

さて、千葉北総病院では病院の機能分化・地域における診療連携の推進に向けて昨年より地域連携クリニカルパス作成に取り組んでおります。心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、乳がんの連携パスです。地域の諸先生のお力をお借りしながら、是非、多くの病院間での運用ができればと願っておりますので宜しくご指導お願いいたします。

看護の面では創傷・オストミー失禁看護、がん性疼痛看護、糖尿病看護認定看護師に追加して昨年は摂食・嚥下障害看護、乳がん看護認定看護師

が誕生いたしました。乳がん看護認定看護師の主な活動内容は乳がん患者と家族への治療に伴う身体的・心理的・社会的サポート、また治療選択のサポート、ボディイメージの変容に関わるケア、術後のリンパ浮腫の予防のための患者教育など実践的・直接的なケアの向上と乳がん看護の普及を図るよう活動しています。がん支援相談窓口もでございますので是非活用くださいませ。

摂食・嚥下障害看護認定看護師の主な活動内容は、摂食・嚥下障害のある患者のQOLの向上を目指して個別性・専門性の高い看護の提供と専門的知識と実践力を基盤として院内や地域の看護師の相談を行っております。

今後も患者様に選ばれる病院を目指して患者様のQOLを高めるよう診療、看護に努力していく所存でございますのでご指導、ご鞭撻を宜しくお願いいたします。





## 腎臓内科あれこれ

腎臓内科 准教授

葉山 修陽 (はやま なおあき)

千葉北総病院開設に伴い腎臓内科での診療が開始され、はや今年の一月で15年を経過します。まずは病院長、各所属の諸先生、病院関係者の皆様にご多大なご協力を頂いたことを深く感謝します。

腎臓内科では蛋白尿、血尿から腎不全までを対象疾患とし、持続性蛋白尿、血尿症候群には腎生検を施行し病理診断を行い、治療方針を建て、長期予後を観察することを基本姿勢としています。保存期腎不全や慢性腎不全は外来にて食事指導、薬物療法で経過観察することを前提としますが、合併症の有無により循環器、呼吸器、他科への対応や短期の入院も行っている。慢性腎不全では血液浄化法への対応としてブッドアクセスを基本的には外来で作成し、患者さんへの透析療法の説明等を行い、計画的に血液透析への導入を心がけ、緊急導入はなるべく避けるようにしています。

慢性腎不全で血液透析に導入される原疾患は1998年に糖尿病性腎症が1位になり以後連続していますが当院でも糖尿病性腎症による血液透析導入例が増加し、

さらに導入年齢の高齢化が現状です。

透析患者の血管合併症(心血管、脳血管)に対しては当院CCU、NCUが対応していただけるので近隣の透析施設からの搬送も受け入れてもらっています。(印旛、成田地区の透析医療の連携)

最近CKD(慢性腎臓病)がテレビや雑誌で紹介されており、皆様にもご理解を頂いていると思いますが、CKD is common. CKD is harmful. CKD is treatable. です。ので早めに対処することをお勧めします。

当院における腎臓内科外来は新患、予約なしが月、土、予約は火、金で、葉山は月、火、金を担当していますので何かお役にたつことがあれば外来を受診していただければ幸いです。火曜日でしたら3時頃、金曜日は1時頃が待ち時間が少ないようです。

最近急増する腎疾患に対し限られた人数での対応ですので、皆様にはご迷惑をかけるとおもいますが宜しくお願いします。



## 「麻酔ってただ寝かせているだけなの?…いいえ！」

麻酔科 医局長・講師

輪嶋 善一郎 (わじま ぜんいちろう)

「麻酔ってただ寝かせているだけなの?」

「麻酔って患者を動かなくしているだけなの?」

…その様に思われる方も少なくないかと思います。しかし、最近、「麻酔方法や麻酔管理は、患者の予後(術後合併症発生率、生命予後、長期予後など)に反映される」という多数の報告がみられるようになってきました。

癌の再発率・転移に関して: 乳癌患者において、区域麻酔を併用した全身麻酔を行った方が、3年後の再発率が低いという報告があります。また、大腸がん術後の肝臓転移(術後5年)に影響を及ぼす因子のひとつに、術中の低血圧が挙げられています。

死亡率に関して: 糖尿病を合併した冠動脈バイパス術を受ける患者に対し、麻酔開始前から厳しい血糖管理を行った場合、2年後の死亡率は低下し、この効果は5年後まで続きます。 $\beta_1$ 遮断薬を周術期に使用すると、非心臓手術後2年間の死亡率が低下するという報告があります。 $\alpha_2$ 作動薬を周術期に使用すると、周術期死亡率が低下するとされています。麻酔深度(この用語には異論があり、臨床的には脳波を術中モニターします)が深すぎる時間が長いほど術後1年後のみならず2年後の死亡率のリスクも高まるようです。

合併症などに関して: 前記のような糖尿病を合併した患者に対し、厳しい血糖管理を行った場合、術後の心房

細動発生率、肺炎罹患率、創感染率、ICU・病院滞在日数などは有意に低くなり、さらに、心筋虚血の再発も減少させます。 $\beta_1$ 遮断薬を周術期に使用すると非心臓手術後30日間の冠血管イベントを低下させるという報告もあります。また、術中において正常体温を維持した場合は、軽度低体温で管理した場合よりも、周術期の心血管イベントや感染症の発生頻度が有意に低下し、飲水食事摂取・抜糸までの時間および入院日数などに見られる患者の回復を促進させるとされています。患者にとって

不利な事として、軽度低体温で術中管理した場合、術後の血液凝固障害により有意に出血量・輸血量が増加するという報告もあります。

紙面の都合上、ここではあまり詳細に述べる事はできませんでしたが、他にも種々のエビデンスが次々と報告されてきており、麻酔管理、周術期管理によって、患者の予後は大きく変わる可能性があります。我々麻酔科医は以上のようなエビデンスを元に日々きめ細やかな麻酔管理を心がけております。



## 血管内治療・IVR 外来のご紹介

放射線科 医局長・講師

川俣 博志 (かわまた ひろし)

血管内治療・interventional radiology (IVR) は、血管造影の技術やカテーテルを用いた低侵襲な治療法であり、放射線医学の重要な分野となっています。他の診療科から依頼される対象疾患や手技は腫瘍の化学塞栓療法、外傷性出血に対する塞栓術など多岐にわたりますが、末梢血管病変に対する治療は当科にて外来・入院治療を行っています。火曜、水曜の午後に血管内治療・IVRの専門外来診療を行っており、近隣の先生方より、閉塞性動脈硬化症、透析シャントトラブルなどの患者様をご紹介頂いています。画像診断などによりIVRの適応が認められれば当科にて治療を、外科手術の適応と考えられれば胸部外科（血管外科）に紹介しています。入院治療後・退院後の外来診療は紹介元の先生にお願いするとともに、当科でも定期的なfollow-upを行っています。歩行時に下肢の疼痛症状が出現する閉塞性動脈硬化症は、整形外科を初診するこ

とも少なくありません。症状を訴えずに歩かなくなることで過ごしている患者様も見受けられます。ステント治療の適応となる患者様は、通常、劇的な症状の改善によりQOLの向上が得られます。歩けることは健康推進のために重要なことと思われます。透析シャントトラブルの患者様は、可及的速やかにシャント機能が回復するよう、緊急・準緊急に治療を行っています。また、昨年4月に日本においてもいよいよ腹部大動脈瘤に対するステント・グラフトが保険適応となり、当院でも治療を行っています。

当院は日本IVR学会よりIVR専門医修練施設に認定されています。閉塞性動脈硬化症、透析シャントトラブル、大動脈瘤など、大血管・末梢血管病変の疑われる患者様がいらっしゃいましたら、是非、当院医療連携室を通じて放射線科（血管内治療・IVR）外来にご紹介いただければ幸いです。





## 北総フォーラムを開催して

薬剤科 科長

福田 恵子 (ふくだ けいこ)

早いもので、千葉北総病院を開院してこの1月で15年目に入ろうとしております。オープン6ヶ月前から担当し関わってきた一人として、この15年間の近隣の風景の変わり様に感慨深いものがあります。

さて、当院も院外処方せんを発行し3年経過いたしました。医師の先生方と同様、地域において良質な医療を提供するため『共に学びましょう!』と、薬剤師同士互いに情報を共有することを目的に、また、お互いの顔が見える関係を築くために『北総フォーラム』を企画し、半年に1度ではありますが、4回ほど回を重ねて参りました。今までは実際の処方医の意図を知ることが目的に、当院の循環器領域、呼吸器領域の先生方に協力を得てご講演をいただきました。アンケートによりますと希望する分野は多岐にわたり、今後も先生方の理解と協力を得

ながら継続していこうと考えております。折から、後発医薬品促進の処方せん様式の変更等があった時は、その対応において、お互いに状況把握し、理解できたことと思っております。最近は薬効はもちろんのこと、その薬を安全に使っていただくための説明事項も多くなっておりますし、その後のフォローアップの必要性も多々ございます。

例えば、『インスリンの打ち方』、『吸入の仕方』などなど……、『北総フォーラム』以外でも随時勉強会を開きながら共に学んでいこうと思っております。

今後、地域内において、各分野の連携パスの導入も検討され始めておりますことから、病診連携はもちろんのこと、我々薬剤師もその連携の重要性を薬業連携をもって、側面から貢献できるよう行っていく所存です。



### 日本医科大学千葉北総病院の理念

#### 日本医科大学の教育理念と学是

教育理念：愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成

学 是：克己殉公（私心を捨て、医療と社会に献身するとの意味）

#### 病院の理念

患者さまの立場に立った安全で良質な医療の実践と人間性豊かな良き医療人の育成

#### 病院の基本方針

1. 患者さまの権利を尊重します
2. 患者さま中心の医療を実践します
3. 患者さまの安全に最善の努力を払います
4. 救急医療・高度先進医療を提供する指導的病院としての役割を担います
5. 地域の保健・医療・福祉に貢献するため、基幹病院としての役割を担います
6. 全ての人のために健康情報発信基地を目指します
7. 心ある優れた医療従事者を育成します
8. 先進的な臨床医学研究を推進します

#### 患者さまの権利

1. 人間として尊重される医療を受けることができます
2. ご自分の病気、受ける医療について、十分理解できるよう説明を受けることができます
3. 説明を受けた医療について、ご自分で選ぶことができます
4. ご自分の診療記録を知ることができます
5. 他の医療機関の受診を希望される場合は、必要な情報提供を受けることができます
6. 患者さまのプライバシーは守られます

## 医療連携室のご案内

医療連携室 主幹

鍵野 芳夫 (かぎの よしお)

医療連携室は、紹介元医療機関との連携を緊密にかつ強く押し進めていくと同時に、医療機関との機能を分担しあう病病連携、病診連携を保ちながら、これからもスピーディーで確実な医療連携体制を医療機関の皆様にご提供して参りたいと思います。

### 【業務内容】

#### ・ FAX による診察申込受付並びにカルテの事前作成

医療連携の推進と紹介患者さまに対するサービスの向上の一環といたしまして、FAX にて連絡を頂き、受診日が決定されている紹介患者さまにつきましては、カルテを前日までに作成し、受診科に届けてございますので、紹介患者さまは、直接に受診される科にお越し頂き、受付けさせて頂いております。

なお、受診当日に FAX にて連絡を頂いた紹介患者さま並びに受診日が未定の紹介患者さまは、従来どおり、紹介患者さま専用受付にて受付けさせて頂きますので、ご案内方よろしくお願い申し上げます。

### 【受付方法】

①受診日が決定している紹介患者さまは、受診される科にて受付けさせて頂きます。

(患者さまは、紹介患者さま専用受付に寄らずに、受診科にて受付けさせて頂きます。)

②当日に FAX にて連絡頂いた紹介患者さま並びに受診日が未定の紹介患者さまは、紹介患者さま専用受付にて受付けさせて頂きます。

(患者様は、紹介患者さま専用受付にて受付けさせて頂きます。)

・紹介用の診療情報提供書(紹介状)および封筒の送付  
患者さまご紹介の際にご記入をお願いしている当院専用の診療情報提供書(紹介状)と封筒をご用意しています。ご利用の場合は、電話または FAX にてご請求ください

#### ・ 外来診療担当医表の作成

毎月作成しています。ご利用の場合は、電話または FAX にてご請求ください。なお、当ホームページにも外来診療担当医一覧を掲載していますので、ご参照ください。

#### ・ 放射線検査の優先予約受付

地域医療連携の一環として、医療連携室にて CT ・ MRI ・ 骨密度の検査予約を受け付けております。

#### ・ お問合せおよび連携窓口

紹介患者さまの受入連絡・調整、ならびに紹介患者さまや紹介元医療機関からの各種問合せ等への対応を行っています。お気軽にお問い合わせください。

(( 医療連携室 ))

電 話 : 0 4 7 6 - 9 9 - 1 8 1 0

F A X : 0 4 7 6 - 9 9 - 1 9 9 1



# 催し一覧

平成20年1月～平成20年3月

## 第3回

### 日医大オープンカンファレンス

～2008年4月の第5次医療法改正における  
地域との医療連携を推進する観点より～

日 時：平成20年1月30日（水）  
19:00～20:30

場 所：大会議室

講 演：

「心筋梗塞：早期診断と  
一次・二次予防の実際」

内科 教授 清野精彦

（座長：集中治療室 部長 畑 典武）

「心筋梗塞地域連携パスについて」

内科 講師 雪吹周生

（座長：内科 准教授 江本直也）

連絡先：医療連携室



## 第58回

### 千葉北総神経放射線研究会

日 時：平成20年2月29日（金）  
19:00～21:00

場 所：大会議室

症例検討：コメンテーター

伊藤寿介先生

三元町病院神経疾患画像診断センター長  
（前新潟大学歯学部歯科放射線科教授）

共 催：千葉北総神経放射線研究会

代表幹事 小林士郎・岡田 進

田辺三菱製薬（株）

連絡先：脳神経外科 秘書 長門



## 編集後記

昨年11月8日に開催致しました地域医療協議会・懇親会には約100名の御出席を賜り、有意義な討論と親睦ができました。誌面を借りて御礼申し上げます。

今後は、各診療分野で地域連携パスを中心にした先生方との交流機会が増えると思いますが、何卒宜しく申し上げます。

（広報委員会委員長・医療連携室副室長 畑 典武）



本広報誌についてご質問あるいはご意見のある方は下記までご連絡下さい。

日本医科大学千葉北総病院 医療連携室

〒270-1694 千葉県印旛郡印旛村鎌苅 1715

電話 0476-99-1810 / FAX 0467-99-1991 / e-mail: hata-n@nms.ac.jp

編 集：日本医科大学千葉北総病院

広報委員会、医療連携室

印 刷：伊豆アート印刷株式会社

発 行：2008年1月（季刊誌）